

The Practice of Biliary Surgery
GABRIEL A. KUNE
AVNI SALI

「胆道の外科」

原著第2版

中日病院・外科医長 澤田誠之 訳
帝京大学教授・溝口病院外科 山川達郎
元杏林大学教授・外科 相馬 智

久留米大学助教授
中山和道

オーストラリアのメルボルン大学医学部外科の Gabriel A. Kune 教授, Avni Sali 助教授の著書である「The Practice of Biliary Surgery」の訳書である。

Gabriel A. Kune 教授は現在なお40歳代という新進気鋭, 篤学の外科医であり, 1981年2月, 第17回日本消化器外科学会総会(会長土屋涼一教授)で surgical intervention in acute pancreatitis という題で, すばらしい特別講演をされたことが私の脳裡に焼き付いている。

これまでに出版された多くの類似の訳書は, “挿し絵がきれいだなあ”

と思うぐらいで, その内容は一般的で極めて大まかなものばかりであった。本書はこれまでの類書とは異なった新鮮さがあり, 簡単な記述でありながら, 含む内容は豊富であり, 要点を実によくまとめている。

外科的解剖, 応用生理も必要最小限に見事に整理されており, 検査法は現在用いられている各種の術前・術中検査法はすべて網羅しており, それぞれの検査法に対する評価も行われている。

治療面では治療法相互の間にまだ議論のある場合には, それぞれの長所・短所をその根拠と共に示し, そ

のうえに著者が最適と考える治療法を呈示してある。

更に本書の特徴として単に過去の知識・概念に追従することではなく, 常に問題意識と批判的な目を失わない, 自らの主張ある本であるという点で驚かされた。

通読して唯一少々物足りなさを感じたのは胆道腫瘍の治療法の項のみであった。

このようなすばらしい訳書ができたのは, 訳者の澤田誠之博士(中日病院, 外科医長, 元名古屋大学講師), 山川達郎教授(帝京大学)が本邦胆道疾患のエキスパートで, しかも日本の外科医の中で最も英語が堪能な方であるということに負うところ多大である。この類書では No. 1 の折り紙を付けたい。

本書は外科医, 内科医, 放射線科医, 卒後研修医の日常臨床や勉学の伴侶として是非ともお薦めしたい書で, また, 広く国際的視野でみた胆道疾患, 胆道外科の現況を知るうえで大いに参考となる本である。私も常に座右にしている書の1つである。

B5判 358頁 16,000円 送料400円
1986年 医学書院 刊